

平成元年度

秋田県環境技術センター年報

第 17 号

(1989)

秋田県環境技術センター

は じ め に

平成元年度の事業概要と調査、研究の結果を年報第17号として取りまとめましたので、お届けします。

ご承知のとおり、近年、酸性雨や地球の温暖化、フロンガスによるオゾン層の破壊等地球規模での環境汚染やゴルフ場からの農薬等身近な環境問題が、毎日のように新聞やテレビ等で報道されるようになり、環境保全に対する県民の関心が高まりつつあります。また、我々職員も日ごろの調査研究結果や収集した環境情報をもとに、環境保全の大切さを啓発して行くことも、課せられた重要な役割と考えております。

当環境技術センターでは、このような社会情勢や県民のニーズを見極めながら調査、研究を進めております。

平成元年度には、酸性雨調査や梅雨明け時の浮遊粉じん高濃度現象の調査研究、環境大気中のアスベスト濃度調査、八郎湖の富栄養化に関する水質調査、酸性湖である田沢湖の水質調査等を行ったところであります。

本県は、豊かな自然環境に恵まれたところであり、このかけがえのない財産を来るべき21世紀に引き継ぐことは、私達の責務であります。

これからも、環境保全のため職員一同鋭意調査研究に努力して参りたいと考えておりますので、本年報をご高覧戴くとともに、ご批判、ご指導を賜れば幸いに存じます。

平成3年1月

秋田県環境技術センター

所 長 長谷川 達 夫